事業報告書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

1. 自然普及事業

自然環境の保全とその適正な利用にかかる調査研究、人材育成、普及啓発、顕彰、森林利活用の推進等の事業を行った。

(1) 調査研究事業

阿寒川水系の水と森林に関する調査（平成16年度からの継続調査）

阿寒川水系の水と森林に関する調査を昨年度に引き続き、財団森林内を流れる阿寒川水系上流域における3河川（キネタンベツ川、チクショベツ川については平成16年度より継続、チュウレイ川については、平成27年度より継続）で降雨量、流量、土砂濃度等の調査を実施した。

事業費 1,429,645円(予算額 1,430,000円)

事業概要

調査 山形大学農学部 菊池俊一准教授

現地調査

日程 令和3年6月14日 河川水自動採取装置3箇所設置

(チクショベツ川、キネタンベツ川、チュウレイ川の各調査区)

令和3年6月～11月 水の採取等の現地調査実施

(2) 人材育成事業

1) 一歩園自然セミナー開催事業

日本をはじめ世界中で感染拡大が懸念される新型コロナウイルス感染症は、釧路地域においても依然収束の目途が立たなかったことから、感染予防対策の基本である「密閉」「密集」「密接」のいわゆる「3密行動」を避ける必要があるため、不特定の参加者を得て実施する本事業については中止とした。

事業費 85,800円 (当初予算額 1,023,000円、補正予算で87,000円)

2) 前田奨学金助成事業

高等学校以上の就学能力がありながら、経済的理由により進学が困難な者に対し、広く高等教育を通して自然環境の保全などに関する知識の習得を促進するため、前年度に引き続き、釧路市前田奨学金に対して助成を行った。

事業費 1,000,000円 (予算額 1,000,000円)

(3) 普及啓発事業

1) 観察会開催事業

自然観察支援事業

当財団管理山林内において、北海道教育大学附属釧路義務教育学校前期課程「自然環境教育プロジェクト」と連携し、同校小学2年～6年生を対象に、森林、河川、野生動植物、水生生物、昆虫等を題材に教科教育と連動した自然体験プログラム(延べ12回、参加者360名)を実施した。

事業費 266,107円 (予算額 344,000円)

2) 特別支援事業

財団管理森林内での次世代の自然環境を担う人材育成に寄与するための自然環境教育に関する主体的な活動に助成金として支援した。

事業費 187,000円 (予算額 200,000円)

支援先

- ・北海道教育大学附属釧路義務教育学校前期課程 187,000円

支援事業名

阿寒湖畔自然体験学習 (2学年及び3学年に係る釧路市⇔阿寒湖畔までの貸切バス代として)

3) 前田一步園財団自然環境保全活動助成事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する活動、刊行等の事業に対して助成を行った。

事業費 1,197,906円 (予算額 3,374,000円)

事業概要

○ 令和3年度助成採択者

① あさひかわサケの会 (旭川市)

助成内容: 環境保全と生態系の回復を通して、石狩川上流部での野生サケ資源の回復事業

助成額: 220,000円

② to-pet 自然の会 (当別町)

助成内容: 石狩川下流当別地区自然再生地環境保全活動

助成額：80,000円

③ 北海道サンショウウオ保全プロジェクト（小樽市）

助成内容：エゾサンショウウオの保全に関する映像・冊子製作及び啓発活動

助成額：340,000円

④ 今田 秀樹（札幌市）

助成内容：「北海道記念保護樹木」の出版事業

助成額：300,000円

※ 助成総額 940,000円

○ 審査経過

令和3年1月12日 募集広報

令和3年4月23日 審査委員会【書類選考】開催（応募件数：道内の団体・個人より計17件）

○ 審査委員

梶本 孝博 氏（委員長・財団理事）

大原 昌宏 氏（北海道大学総合博物館副館長・教授）

大原 雅 氏（北海道大学院地球環境科学研究院教授）

柴田 真年 氏（公益財団法人 北海道環境財団専務理事）

安田 直人 氏（環境省北海道地方環境事務所長）

本間 博人 氏（北海道環境生活部環境局自然環境課長）

4) 森林利活用推進事業

財団創立30周年を契機に、平成26年度より「森の学校」事業の取り組みを開始した。

(ア) 「教育の森」では、学校教育の現場で森林並びにその取巻く自然環境（地形・地質・野生動植物・河川等）を活用できる教員育成に資するため、北海道教育大学釧路校学生を対象とした指導者養成事業の「きっかけポン／阿寒の森プロジェクト」を昨年度に引き続き実施した。

○ 指導者養成

北海道教育大学釧路校との連携

財団管理森林の「光の森」をメインフィールドとして、次世代の教育者を目指す学生に対し、学校教育に係る教材開発、活用を見据えた自然観察・体験活動の場を提供した。

実施日並びに参加者

令和3年8月9日 北海道教育大学釧路校 大学生等20名

(イ) 「レクリエーション・健康の森」では、当財団が認定した「一歩園森の案内人」が実施する管理森林内のガイドツアーによる今年度の入林者数は923名（日本人916名 外国人7名）で、昨年度の入林者数（406名（日本人385名 外国人21名））と比較して、日本人を中心として入林者数は回復傾向にはあるが、依然、新型コロナウイルス感染症の影響による入国制限措置もあり、外国人の入林者は回復していない。しかし、一方では自然志向への回帰から「一歩園森の案内人」による森林散策等への関心が高まりを見せている。

財団森林を活用したアイヌ文化のガイドツアーを検討している阿寒湖アイヌコタンからの要請もあったことか

ら、「一步園森の案内人」の養成事業を昨年度に引き続き実施した。

○ 令和3年度「一步園森の案内人」による入林者数（令和3年4月～令和4年3月）

入林者数 923名（日本人916名 外国人7名）

外国人の国籍別内訳

アメリカ2人 ヨーロッパ4人 その他1名

○ 「一步園森の案内人」（ガイド）の養成

4名（アイヌコタン4名）

(ウ) 「研究の森」では、東京農業大学生物産業学部との連携協定に基づき、財団管理森林内において、天然林やエゾシカをテーマにした「卒業研究（4年次・3年次）」に対する支援を行った。

○ 研究支援

卒業論文4件に係る、財団管理森林の解説、研究フィールドの選定支援などを実施した。

卒業論文

- ・「天然林施業履歴のある針広混交老齢林における倒木の分布状況と更新稚樹密度」
- ・「阿寒湖周辺における広葉樹成木へのシカの樹皮剥ぎ被害の定量調査」
- ・「阿寒湖周辺の餌場における野生エゾシカの利用状況の調査」

○ 実習支援

生態系保全学研究室所属学生に対し、財団管理森林の案内および解説を実施した。

実施日並びに参加者

令和3年7月1日 東京農業大学生物産業学部生（3年次21名）

事業費

857,441円（予算額 953,000円）

（4）顕彰事業

前田一步園賞事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する分野で活躍している団体・個人の優れた業績をたたえて前田一步園賞を贈呈した。

また、未来を担う子供（小中学生）たちの自然環境の保全活動を顕彰する一步園ジュニア自然環境賞奨励賞を贈呈した。

事業費

1,790,636円（予算額 2,408,000円）

事業概要

（ア）前田一步園賞顕彰者

○大西英一（釧路市） 釧路市推薦

業績： 長年にわたり、釧路地域において、一般市民を対象とした自然観察・解説講座「釧路自然再発見シリーズ」の開催（延べ48回、4500名）などをはじめ、釧路市武佐地区の森林帯を行政に働きかけて公園化の実現にも寄与。また、釧路湿原ボランティアレンジャーとして活動する傍ら、釧路湿原を身近に触れられる植物図鑑の制作など、釧路地域の多岐にわたる自然環境の普及啓発、人材育成のパイオニアかつリーダー的な存在として尽力。

○富良野の自然に親しむ会（富良野市） 富良野市教育委員会推薦

業績： 長年にわたり、開拓以前の自然環境を色濃く残す富良野市民の憩いの場でもある鳥沼公園をメインフィールドとして、会員をガイドとした自然観察会や同市内外の専門家による講演会などを年間を通して積極的に実施する傍ら、富良野市博物館と連携し、地域の見どころを紹介するガイドブックを継続的に制作するほか、地下水位調査への協力や同公園に案内看板を設置するなど、自然環境の保全、啓発活動にも多岐にわたり取り組む。

(イ) 一歩園ジュニア自然環境賞

○ 一歩園ジュニア自然環境賞については該当団体なし。

○ 一歩園ジュニア自然環境賞奨励賞顕彰者

・富良野大麓自然愛護少年団（富良野市） 北海道上川総合振興局推薦

業績： 富良野岳、大麓山一帯の自然を愛護し健康な体と健全な精神を養うために、以下の活動を実施。

①麓郷街道クリーン作戦（富良野市などと連携し観光シーズンを迎える前に麓郷街道と周辺（学校林・白鳥山・巣箱点検補修等）の清掃活動を実施。）②原始ヶ原パトロール登山③夏山登山（大麓山）

・美瑛町十勝岳愛護少年団（美瑛町） 北海道上川総合振興局推薦

業績： 十勝岳、美瑛地域の自然を愛護し健康な体と健全な精神を養うために、以下の活動などを実施。

①年3回の道路清掃②十勝岳山開き清掃登山

・野付緑の少年団（別海町） 別海町教育委員会

業績： 別海町の野付地域の緑に親しみ、緑を愛し、これを育てつつ健全な心身を養うため、以下の活動などを実践。①別海町植樹祭の参加②花壇整備③バイクの日・野付崎美しい浜辺づくり清掃活動、スタンドアップパドルボート体験、河川清掃④藻琴山登山体験

○ 審査経過

令和3年 5月10日 候補者推薦依頼（環境省、北海道、市町村、市町村教育委員会）

令和3年 9月 7日 審査委員会開催

（推薦件数：前田一步園賞5件、一步園ジュニア自然環境賞3件）

令和3年11月12日 表彰式（ホテルポールスター札幌／札幌市）

- 審査委員
- 梶本 孝博 氏（委員長・財団理事）
 - 大原 昌宏 氏（北海道大学総合博物館副館長・教授）
 - 大原 雅 氏（北海道大学院地球環境科学研究院教授）
 - 柴田 真年 氏（公益財団法人 北海道環境財団専務理事）
 - 櫻井 洋一 氏（環境省北海道地方環境事務所長）
 - 本間 博人 氏（北海道環境生活部環境局自然環境課長）

(5) 地域保全事業

1) 山火事予消防活動助成事業

これまで、阿寒湖畔地区の森林を火災から守るため、森林愛護思想の普及啓発と山火事予消防活動への支援、装備の充実に必要な用具に対して助成を行っていたが、令和3年度は助成要望が無かったため助成を行わなかった。

事業費(助成) 0円(予算額 300,000円)

(助成先:阿寒湖畔森林愛護組合)

2) エコミュージアムセンター活動助成事業

阿寒湖畔エコミュージアムセンターの活動に対して助成を行った。

事業費(助成) 800,000円(予算額 800,000円)

(助成先:阿寒湖畔エコミュージアムセンター運営推進協議会)

(6) 前田記念館管理事業

前田記念館および庭園の整備と保守管理を行った。

事業費 1,366,500円(予算額 1,240,000円)

2. 森林保全事業

基本財産である山林は、全域が国立公園特別地域、水源かん養等保安林及び鳥獣保護区に指定されており、公益的機能の維持・向上が強く求められている。このため、森林を適正に保全し、風致景観や野生鳥獣生息環境などの、森林のもつ多面的な機能を維持・向上するため、令和3年度においても引き続き保全管理・人工林保育・天然生林改良の各事業を実施した。

(1) 保全管理事業

1) 巡視事業

山火事予防、入林者の危険防止、立木の盗伐防止、自然保護思想の普及等を図るため、林内に巡視人や、林道入口に監視人を配置するとともに、阿寒湖畔沿いにある道有地の自然環境の保全及び活用にかかる北海道の「公有財産管理委託業務」を受託し、当該土地及び立木の管理に関する業務を実施した。

事業費 1,979,000円（予算額 2,000,000円）

（請負等先：阿寒湖畔森林愛護組合、(有)前田一步園林業）

2) エゾシカ食害対策事業

(ア) 「ビートパルプの給餌」、「囲いワナによる捕獲」、「樹皮防護ネット巻き」といった対策事業を継続して実施し森林被害防止に努めた。これらの対策とあわせて、エゾシカの被害状況や生息状況について、独自に、また大学や研究機関と連携して調査を実施した。

囲いワナによる捕獲事業実施にあたって、囲いワナは計3基（小型1、大型2）設置した。内1基は、これまで既存の大型囲いワナでは設置が困難であった林道脇の給餌場へ設置し、捕獲を実施した。

なお、令和3年度の森林被害防止対策の内、囲いワナの設置（3基）及び囲いワナ内の誘引を目的とした給餌（80個）に関しては、補助金（令和3年度エゾシカ森林被害防止強化対策事業）の交付申請を行い、同補助金を活用し実施した。また、令和3年1月18日～3月29日に捕獲したエゾシカ（補助対象101頭）については、令和3年度鳥獣害被害対策防止総合対策交付金を申請し、同交付金を受領した。

(イ) 令和2年11月に設置された「阿寒摩周国立公園エゾシカ対策協議会」（事務局：環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所）に構成員として参加（現地検討会における財団森林の使用、会議における事例紹介）した。

加えて、環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所がエゾシカにGPS首輪を付けエゾシカの季節移動等の情報を収集することを目的とした事業を実施するにあたり、管理森林内の囲いワナで捕獲したエゾシカ（1頭）を提供した。

事業費 12,186,291円（予算額 11,540,000円）

（請負先：(有)前田一步園林業）

事業概要

① ネット巻き事業

給餌場周辺のイチイ、オヒョウなどの食害の危険性の高い樹木への防護ネット巻き（実施数：30本）

② 給餌事業

給餌場、ワナ内の給餌

（冬期：令和3年12月6日から令和4年3月28日まで実施、16箇所、952個給餌）

給餌合計 952個（ビートパルプ 1個60kg、給餌総量57,120kg）

③ 囲いワナ設置、捕獲事業

・春季：令和3年4月2日から令和3年4月23日まで、R2年度設置ワナ：3基、捕獲：28頭（10回）

・冬期：令和4年1月18日から令和4年3月29日まで、設置：3基、捕獲：102頭（30回）

捕獲頭数合計 130頭

捕獲回数合計 40回

④ 囲いワナ撤去事業

令和2年度に設置した囲いワナの撤去（撤去ワナ数：3基）

⑤ 調査事業

- ・餌場周辺樹皮食害状況調査（4～5月）（直営実施）
- ・森林内出没状況踏査（5～12月）（直営実施）
- ・森林内簡易チェックシート調査（5～7月）（直営実施）
- ・森林内樹皮食害、角こすり状況調査（5～7月）（直営実施）
- ・囲い区を用いた幼稚樹影響度調査（9月）（研究機関と直営で実施）
- ・餌場における出没状況調査（1～3月）（大学と直営で実施）

3) 林道事業

春の雪解け後の全山林道・作業道の支障木除去、ならびに既設の林道・作業道の維持管理、および排水管・止水板等の関連設備の補修・設置を実施した。

事業費 2,086,000円（予算額 2,000,000円）

（請負先：（有）前田一步園林業）

4) 調査事業

林分構成の整備を図るため、現況調査を令和3年度施業実施区域である3110・3119林班の天然生林にて行った。加えて、調査に必要な消耗品、備品を購入した。

事業費 804,428円 (予算額 1,240,000円)

5) 危険木等処理

危険木・支障木等の処理（伐採・移動等）を実施した。

事業費 373,000円 (予算額 500,000円)

(請負先：(有)前田一步園林業)

(2) 人工林保育事業

1) 植樹祭事業

植樹祭に係る苗木の購入、地拵え、下刈を実施した。

事業費 360,000円 (予算額 350,000円)

(請負先：(有)前田一步園林業)

2) 除間伐・枝打事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、人工林41.55haの間伐、17.13haの保育間伐、28.35haの枝打、および伐採木(519m³)の搬出を実施した。

事業費 13,612,041円 (予算額 12,240,000円)

(請負先：(有)前田一步園林業)

作業実施林小班 間伐 : 3080-8、3081-2・4
保育間伐 : 3081-10
枝打 : 3080-8、3081-4

3) 人工造林下刈事業

林木の健全な成長を促進させるため、平成29年度に植栽した人工造林地の4.70haの下刈を実施した。

事業費 297,000円 (予算額 310,000円)

(請負先 : (有)前田一步園林業)

作業実施林小班 3084-12

(3) 天然生林改良事業

1) 誘導造林事業

天然生林において林分構成の充実を図るため、12haの天然生林の樹下にエゾマツ・トドマツの苗木(7,200本)を植栽した。また令和4年度植栽予定地7haの地拵えを実施した。

事業費 4,555,000円 (予算額 4,620,000円)

(請負先 : (有)前田一步園林業)

作業実施林小班 植栽 : 3119-3

地拵 : 3119-3

2) 誘導造林下刈事業

林木の健全な成長を促進させるため、平成28年～令和2年の植栽地34.75haの下刈を実施した。

事業費 2,202,000円 (予算額 2,120,000円)

(請負先：(有)前田一步園林業)

作業実施林小班 3074-12、3075-6、3083-22・23・24、3090-1、3089-2、3118-6

3) 天然生林間伐事業

天然生林において林分構成の充実を図るため、82.83haの間伐、8haの更新伐、650mの森林作業道敷設、および伐採木(1,147m³)の搬出を実施した。

事業費 24,859,759円 (予算額 29,350,000円)

(請負先：(有)前田一步園林業、釧高運輸(株))

作業実施林小班 間伐 : 3110-1、3110-2、3110-4

更新伐 : 3119-3

(4) 業務費

森林保全事業に係る「旅費交通費」、「諸謝金」、「雑費」を支出した。

事業費 464,687円 (予算額 1,350,000円)

(5) その他業務

視察等の受入れ

教育機関、行政機関、各種団体からの視察要望に対応した。受入件数は3件、人数は24名であった。

おもな視察受け入れ内容

令和3年	5月16日	1日	自然環境視察（北海道教育大学附属釧路義務教育学校前期課程）	（5名）
令和3年	8月2日	1日	天然林施業（釧路管内指導林家連絡協議会・釧路管内林業グループ）	（16名）
令和3年	11月8日	1日	森林視察（内閣官房アイヌ総合政策室）	（3名）

3. 土地貸付事業

基本財産である土地（山林、宅地等）は、全域が国立公園特別地域、保安林、鳥獣保護区に重複して、あるいは単独で指定されている。さらに阿寒湖畔の土地は、国立公園集団施設地区に指定されているなど、公益性が強く求められている。

このため、土地の管理保全及び適正な利用を図り地域の振興に資するため、前年度に引き続き土地の貸付を行った。

なお、本年度の土地貸付料においては、新型コロナウイルスによる観光業へのダメージが非常に大きかったことを鑑み、関係する事業者及び一般契約者の地代金を下記のとおり減免することとした。

（減免内容）

① 観光業等 30%の減免

② 経営規模の大きい会社 25%の減免

ア) 中小企業基本法の中小企業に該当するが、定義の2つの要件（資本金及び従業員数）のうち、どちらかの要件が基準より大きい規模の会社

イ) 中小企業基本法の中小企業の定義の2つの要件とも中小企業に該当するが、経営が安定し経営規模が大きい会社

③ 一般の契約者 10%の減免

(表3-1) 土地貸付料減免実績

	減免先	件数	減免率	減免金額	備考
①	観光業等	61	30%	8,999,830	旅館、商店、飲食店、サービス業等
②	経営規模の大きい会社	3	25%	9,813,230	ホテル、運送会社
③	一般の契約者	54	10%	914,120	個人住宅、駐車場敷地等
	合計	117		19,727,180	

(1) 土地保守・管理事業

財団所有地における土地の保守と管理を目的に、主に空地等の緑化や車両の進入を防止することを目的にプランターやベンチなどの設置を行なった。

また、市街地中の財団管理地内において、危険木及び不法投棄物の処理を実施した。

事業費 406,058円 (予算額 480,000円)

(2) 土地貸付

前年度に引き続き、表3-2のとおり土地の貸付を行った。

(表3-2) 土地貸付等状況一覧

契約区分	令和3年2月現在		令和4年1月現在		備考
	契約件数	貸付等面積	契約件数	貸付等面積	
有償契約	203件	520,261 m ²	202件	520,102 m ²	電力会社送電線敷地41haを含む。
無償契約	20件	356,991 m ²	20件	356,991 m ²	北海道、釧路市、森林管理署、アイヌ協会外
計	223件	877,252 m ²	222件	877,093 m ²	

4. 温泉事業

当財団が所有する源泉は、阿寒湖温泉のほぼ全域のホテル・旅館等に温泉を供給しており、その公益性が強く求められている。このため、源泉及び温泉供給設備の拡充と安定供給体制をより一層強化するため、施設整備の計画的な推進を行った。

なお、本年度の温泉使用料においては、新型コロナウイルスによる観光業へのダメージが非常に大きかったことを鑑み、関係する事業者及び一般契約者の温泉代金を下記のとおり減免することとした。

(減免内容)

① 観光業等 30%の減免

② 経営規模の大きい会社 25%の減免

ア) 中小企業基本法の中小企業に該当するが、定義の2つの要件（資本金及び従業員数）のうち、どちらかの要件が基準より大きい規模の会社

イ) 中小企業基本法の中小企業の定義の2つの要件とも中小企業に該当するが、経営が安定し経営規模が大きい会社

③ 一般の契約者 10%

(表4-1) 温泉使用料減免実績

	減免先	件数	減免率	減免金額	備考
①	観光業等	16	30%	5,443,760	旅館、商店等
②	経営規模の大きい会社	3	25%	13,567,900	ホテル、運送会社
③	一般の契約者	16	10%	533,900	個人住宅、共同浴場等
	合計	35		19,545,560	

(1) 温泉供給施設の整備

1) 揚湯ポンプの拡充事業

各源泉共通予備の温泉ポンプ（7.5kw×1台）及び、揚湯管（8本）を購入し、温泉の安定供給の確保に努めた。

事業費 2,237,000円（予算額 2,250,000円）

2) 正次6号源泉本管の更新整備事業

正次6号源泉の供給本管において、経年劣化により、配管継手が抜けてしまう事案が増加していたため、本管の一部である約200mの配管を更新整備するなど、全源泉を管理するための資材を購入し、安定供給に努めた。

事業費 651,390円（予算額 746,000円）

(2) 新源泉掘削事業

令和3年度事業で予定していたチップ川源泉に代る新規源泉掘削事業は、新型コロナウイルス感染拡大による観光事業者への甚大な影響を鑑み行った土地及び温泉使用料の減免措置による経営への影響や、今後の新型コロナウイルスによる観光業への影響が不透明であることを考慮し中止とした。

事業費 0円（当初予算額 39,970,000円、補正予算で0円）

(3) 源泉及び温泉供給設備の管理

令和4年1月現在の当財団所有源泉数は前年度から増減なく15本（内、稼働中11本、休止2本、観測井2本）である。前年度に引き続き、令和3年度においてもこれら源泉及び温泉供給設備の管理保全に努めた。

(4) 温泉供給

前年度に引き続き、表4-1のとおり温泉供給を行った。

(表4-2) 温泉供給状況一覧

供給区分	令和3年3月現在		令和4年1月現在		備 考
	契約件数	供給本数	契約件数	供給本数	
有償供給	63件	292本	62件	291本	
無償供給	3件	4本	3件	4本	北海道(阿寒湖畔診療所)等
自家用		3本		3本	暖房等財団諸施設
計	66件	299本	65件	298本	

5. その他

(1) ホームページ管理委託事業

ホームページの管理及び、更新等を専門業者に委託した。

事業費 216,000円(予算額 216,000円)